

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400642		
法人名	サッポロ・ライフケア 株式会社		
事業所名	グループホーム 虹の家 琴似		
所在地	札幌市西区八軒3条東2丁目2 - 12		
自己評価作成日	平成22年10月25日	評価結果市町村受理日	平成22年12月15日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170400642&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成22年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

できるところはなるべく自分で行っていただき、できないところはさりげなく支援する事に心がけています。 また、入居者さんが買い物や、行きたい所への意思表示に沿うよう努力しています。 3食の食事はスタッフが心をこめて食材を工夫し食べやすくなるよう努めた結果 入居時より体重が増えてしまったり、髪の毛がふさふさになり黒くなられた方が多くなりました。 入居者さんと職員も楽しく毎日が過ごせる雰囲気作りを心掛け、一緒に自立して暮らせるよう工夫をしています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム 虹の家 琴似」は閑静な住宅街に立地しており、近くに公園などもあり散歩に適した環境にある。 建物は周囲の住宅に溶け込んでおり、家庭的な造りの1ユニットの事業所である。共用空間の1階は主に生活の場になり、居室が多い2階への階段歩行は生活の中でリハビリになり、自立に繋がっている。開設8年を経過した当事業所は運営推進会議を有意義に活かし、事業所の駐車場を利用して町内会及び子供会と合同で夏祭りを行い成果をあげている。また火災避難訓練には町内会の消防団も参加し、地域ぐるみで実施されている。町内会の清掃に参加したり、近隣から野菜類などのお裾分けがあるなど身近な触れ合いもある。職員は利用者の状態を常に把握する中で、工夫された様式に情報を落とし、実情に沿った介護計画を全員で作り上げている。食材は委託業者を利用しているが、利用者の好みなども入れて自在に献立を変更し、盛り付けの彩りもよく、味付けにもひと工夫があるなど家庭的な食事を提供している。入浴はいつでも入れるように準備し、入浴をしなかった利用者に対しては就寝前に毎晩清拭している。管理者と職員は利用者の尊厳を尊重し、さり気ない支援で利用者とともに明るい自立した生活を支え、また法人の代表者も事業所の運営に熱心で積極的に管理者をサポートしている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○
		1. ほぼ全ての利用者の	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいが	2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいが	3. 家族の1/3くらいと
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○
		1. 毎日ある	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある	2. 数日に1回程度
		3. たまにある	3. たまに
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○
		1. ほぼ全ての利用者が	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが	2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが	3. あまり増えていない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○
		1. ほぼ全ての利用者が	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが	2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが	3. 職員の1/3くらいが
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○
		1. ほぼ全ての利用者が	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが	2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが	3. 利用者の1/3くらいが
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○
		1. ほぼ全ての利用者が	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが	2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが	3. 家族等の1/3くらいが
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	○
		1. ほぼ全ての利用者が	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが	2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが	3. 家族等の1/3くらいが

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念として個人の尊厳と人格の尊重を唱えている。スタッフは毎朝申し送りの前に声を出して読み上げ、地域に馴染んで安心をした生活を支えるためにはどうすべきかを考え、そのための支援に取り組んでいる。	開設時の運営理念とケア重要目標を分かりやすい短文にまとめ、尊厳と人格を尊重した支援を軸としているが、その内容に地域密着型の文言などは盛り込まれていない。理念は申し送り時の唱和やカードを携帯し職員にも浸透されている。	年度目標などに地域密着型の視点も盛り込み、職員間で作成する過程で地域住民との関わりを更に深めるような取り組みに期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に馴染んだ生活を支える為、町内の行事になるべく参加したり外出を心がけ、地域の住民の皆様とは日常的な交流を深めていることに取り組んでいる。	町内会と子供会が加わった合同の夏祭りは盛大に行われた。また、町内会行事のカラオケや踊りなどの催しにも参加している。地域の清掃には利用者もゴミ拾いに参加したり、近所から野菜類の差し入れもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者と地域の方々との交流によって認知症の方への理解は深めて頂けていると思う。職員や入居者が少しでも地域に役立つのであれば、いつでも協力をしていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、入居者の方々の活動報告のほか、避難訓練の報告や町内会との合同の行事の打ち合わせを行っている。会議に参加して頂いた方々にも、感想や意見を頂きサービスの向上に努めている。	2ヶ月ごとに運営推進会議を開催し、事業所の活動報告の他、外部評価の結果も報告している。避難訓練や事業所の夏祭りを話し合う中で町内会との合同開催に発展し、また避難訓練には町内会消防団の協力なども得られるなど、会議での話し合いが実施に活かされている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	職員が窓口へ出向き手続きなどわからない点を教えていただいたりアドバイスを頂いている。	法人の代表者が中心になって事務的な手続きや制度的なことを市の担当者に相談している。管理者は区の管理者会議に出席して行政からの情報を交換し、生活保護担当者とは必要に応じて話し合っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はあってはいけない行為であると職員全員が認識を持って働いている。日中は玄関の鍵をかけていない。建物の構造上、玄関は死角となってしまうため玄関の入口にはブザーを取り付け入居者の出入りには察知、把握をしている。	「身体拘束ゼロへの手引き」は閲覧ができるようにファイルに綴っている。管理者は身体拘束の外部研修に参加し、ミーティングで身体拘束の基準を説明し、報告書を閲覧して全職員が内容を共有している。日中は玄関にブザーを取り付け、鍵をかけないで見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	個人の尊厳や虐待防止について学び、日々意識をしながら業務についている。親しみをこめた言葉や自立を促す言葉が、虐待にとらわれてしまわないよう注意を払っている。		

グループホーム 虹の家 琴似

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての研修や、実務者研修を受講し勉強する機会を作っている。		
9		○ 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだ段階で十分な説明を行い不安のないよう納得がいくまで説明をしている。また、医療連携体制や今後起こりうる重度化になった場合についても説明をしてご理解・ご納得頂けるよう図っている。		
10	6	○ 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	私達は入居者の言動を観察し不満がないよう個々に話を聞くよう心掛けている。要望の訴えがなくともスタッフ間で入居者が何を求めているか、どうすべきかを話し合っている。利用者が不満や意見を言いやすい関係作りに心掛けている。	以前には意見箱を設置していたが利用されていないので、来訪時に直接意見を聴くように対応している。年に2回の大きな行事の後に家族会を持ち、意見を聴いて情報交換している。	
11	7	○ 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングをする時には事前に所定の用紙へ意見を書き込むことで意見が出しやすくなり出席できないスタッフの意見を聞いている。また申し送りの時も、職員の意見や要望を聞き働く意欲の向上にもつなげられるよう意識し反映させている。	申し送りやミーティングで職員は意見を交換している。また利用者の状態を様式に記録し、介護計画にも反映させている。管理者は勤務表の調整などを配慮し、職員の意見を聞く中で代表者に相談している。職員は代表者と年に1回の個人面談もある。	
12		○ 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は、管理者や職員の努力は認めていると思う。研修は勤務に支障が起きないように調整し、向上心を持って働けるよう努力している。		
13		○ 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会は各スタッフに与えられ参加している。研修で学んだ内容を内部研修で他の参加できなかったスタッフへも伝え学ぶ機会を作っている。ケアのレベルアップ研修に参加することで職員自身の心身の育成にも働きかけている。		
14		○ 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区のグループホーム間で行われる集まりに積極的に参加している。4、5名の班に分けて職員にも参加できる勉強会や、交流会などサービスの質の向上に役立てる取り組みを実施している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っていることや不安なことを視点に置き、家族とよく話し合い病歴や本人自身はこれからどう生活していきたいかなど、得られた情報を整理していく中で状況を把握し、信頼関係を築いていけるよう聞く機会を持つことを努力している。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来る限り家族とよく話し合い、困っていることや不安なことなど何を求めているのか話を聞く機会を作り、受け止めて対応している。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に本人やご家族が何を求めているか、今までどのような暮らし方や生き方をしてきたのか、総合的に情報を捉えた上で必要な支援を見極め当グループホームで対応できるものなのか判断し対応をしている。		
18		○ 本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室の掃除、衣類の整理など本人が出来るところはやって頂き、職員と会話をしながら一緒に行っている。昔の話やしぐさなど、何気ない言葉から本人の思いや情報を得たり、会話やレクを通してお互い支え合う人間関係を築いている。		
19		○ 本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族から気がかりなことや要望などを気軽に言ってもらえるよう、こちらから日々の様子や支援の内容を伝えて話しやすい雰囲気を作り、ご本人と一緒に支えている関係作りに取り組んでいる。		
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の親族や昔からの友人などが気軽かつ積極的に訪ねてきて頂けるよう声をかけ、今まで支えあってきた人達との関係が途切れないよう支援している。電話や手紙で繋がりが途切れないよう支援に努めている。	利用者に訪問があった時は、突然の訪問でも食事のサービスを提供したりお茶を出すなど、来訪しやすいように配慮している。家族の協力を得てお墓参りや宗教の集会に出かけ、馴染みの場所や関係を継続できるように支援している。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう、会話やレクリエーションなどを通して入居者同士が仲良く暮らして頂けるよう努めている。また、個々の事情や言動を見ながら入居者同士の相性に配慮して、皆で楽しく支えられる関係作りに努めている。		

グループホーム 虹の家 琴似

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方で 虹の家において明るい性格で行事が好きな方だった為本人の4月の誕生日にホーム長が施設まで伺いお菓子やクッキー、飴の差し入れをした。後から娘さんからホーム長ではないかとお礼の電話を頂いた。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なかなか本人自らの希望や意向の表示がないためスタッフで具体的な思いについて本人の立場に立ちながら考えたり、センター方式を用いながら情報を整理することで本人の思いの把握に努めている。	センター方式のアセスメントで暮らしの情報を把握し、会話の中から編み物などの以前の趣味を再開させた例もある。常に問いかけをして反応を見て、自分だったらどう思うか利用者の思いを探り、その情報を職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族から話を聞くほか、利用されていたサービスの事業所などからもお話を聞くことで具体的な情報を整理し、ホーム入居までの経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の様子を観察して24時間記録に残している。口頭でも申し送り、必要時は連絡ノートに記載して情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族から出た意見・要望などを基に原案を作成し、ケアカンファレンスにおいてスタッフ同士で意見交換を行い、自分らしく暮らしていける計画なのかを再検討し、意見やアイデアを反映できるよう取り組んでいる。	関係者からの情報を基に介護計画書を2週間以内に作成し、1ヶ月以内に見直している。状態に変化がない場合は3ヶ月ごとの見直しで、職員の記録を基にモニタリングを行い、カンファレンスで意見を交換し、利用者、家族の意向を入れて更新計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者それぞれの日々の様子、食事や分量、排泄や身体状況、本人の言葉、訴えや要望などを記録し介護計画の見直しに生かすよう取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者やその家族の要望に応じて、退院や送迎に必要な支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月1回、ギター演奏やフラダンスの講師の方に訪問して頂いている。また、入居者本人の希望で近隣の理美容室に行かれたり、ホームに訪問して頂きサービスを利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回提携の訪問診療があり、バイタル測定や体調に不安がないか入居者に話しかけられ相談できる関係を持っている。体調に変化があった時は、その都度主治医に報告をして指示を頂いている。	協力医の内科往診の他、必要に応じて歯科の往診もある。入居前から継続しているかかりつけ医の通院は家族が同行し、家族を通して主治医と情報を交換している。医療情報は、医療記録、医療連携チェック表で職員間で共有している。	

グループホーム 虹の家 琴似

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携している訪問看護師が毎週看ているため、顔馴染みとなり気軽に相談しやすい関係が出来ている。スタッフも日頃の健康管理や医療面について助言や相談が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合、入院先に必要な情報を提供している。また、なるべく早く退院できるよう家族や病院側の回復状況等、退院支援に努め実施している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームとして「看取りの考え方と指針」のマニュアルを作成しており、重度化した場合や終末期に備えている。家族やホーム、医療機関が一丸となって取り組めるよう、家族や医療機関とともにチームとしての連携に努めている。	利用開始時に重度化に伴う対応方針を説明の上、同意を得ている。事業所方針として希望に沿って看取りも行っている。状態の変化から、その段階になった時には方針を話し合い、看取りに関するマニュアルの下に覚書を交わしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルや申し送りなど、知識と実践の資料がファイルに保存されている。夜勤時に目を通し、実際の場面で生かすことのできる技術を身につけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練や避難訓練を定期的に行っている。八軒消防署の協力を得て町内会と合同で防災訓練も行っている。通報訓練、避難訓練では消火器の実技指導、消火訓練、バケツリレーに入居者も参加し地域の人々の協力を得られている。	消防署の立会いの下に、日中、夜間を想定した火災避難訓練を年に2回実施し、利用者や町内会消防団も参加している。スプリンクラーは来年に取り付ける予定である。救急救命の受講訓練を進めているが、全員が受講するまでに至っていない。	全職員が定期的な救急救命を受講し、訓練を受けよう体制に期待したい。また火災以外の災害にも備え、緊急時の備蓄なども検討されるよう期待したい。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	すべての職員が入居者一人ひとりの人格を尊重しプライバシーの確保を徹底するなど、入居者の尊厳と権利を守ることに取り組んでいる。	職員は利用者に対して、人生の先輩として尊敬の念を持って接している。名前の呼びかけは、基本は「名字」に「さん」付けであるが、本人・家族等にも相談して臨機応変に対応している。また、適切な言葉遣いについてミーティングなどで話し合っている。個人の記録は事務室で管理し、面会簿はプライバシーに配慮して一覧形式ではなくカード式を採用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が表出しなくても入居者が食べたいメニュー、「理美容を利用したいか？」など本人が決める場面づくりを実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースでゆっくり楽しく過ごして頂けるよう、可能な限り個性のある支援に取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者一人ひとりの個性を大切に髪形や服装など、本人の好みや意向に沿えるようさりげなく支援している。本人希望のなじみの美容室や床屋に行く支援を行っている。		

グループホーム 虹の家 琴似

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れ、好き嫌いがある人には調理を工夫したり、代替してその人に合わせた食事が出来るよう実施している。調理の下ごしらえや手拭きの準備、下膳は入居者が行っている。	利用者は、できる範囲で職員と一緒に食事の下ごしらえや下膳などを行っている。食材は納入業者に委託しているが、献立は利用者の好みを聞きながらホーム長が考え、プランターでできた旬の野菜も加えて健康的で美味しい食事を提供している。行事やお誕生日には、全員が大好きなお寿司で楽しんだりお祝いしたりしている。	
41		○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は食材業者の管理栄養士が作っている。体調に合わせて盛り付けたり、嫌いな物には代替の物を提供。チェック表で個々の食事摂取量や水分量を記録し、職員全員が把握できるようになっている。		
42		○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者一人ひとりの口腔内の清潔保持が出来るよう、口腔ケアを心がけたり介助しながら日常的に行い、週2回は入れ歯洗浄剤を使用し消毒・脱臭を行っている。		
43	16	○ 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけパットやおむつの使用が少なく済むように、排泄のパターンを把握してトイレ誘導をしている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを「個人記録」で把握し、自力で排泄できるように支援している。病院から移ってきた利用者で、以前はおむつを使用していたが現在は布パンツになった利用者もいる。排泄の失敗時にはさり気なくトイレに誘導し、周囲に気付かれないように上手に処理している。	
44		○ 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘は心身の不安定を引き起こすため支援が必要と捉えている。なるべく食物繊維の多い食事を取り入れたり、水分摂取にも心がけ自然排便を促す工夫を個別にしている。		
45	17	○ 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はいつでも出来るよう、一人ひとり個別に合った入浴を楽しんで頂けるよう無理せず気分の良い日に入浴されるよう支援している。	午後の時間帯に毎日入浴できるようになっている。最低週2回以上入浴してもらい、入浴拒否の利用者には適切に声がけて入浴を促している。当日入浴をしなかった利用者に対しては、就寝前に全員の清拭をしている。	
46		○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員は一人ひとりの入居者の睡眠パターンや排尿パターンを把握し、夜間トイレ誘導や見守りを行っている。日中も体調に合わせてベッドでの休息を促している。		
47		○ 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者が使用している薬の目的や副作用、用法や用量については職員が理解できるよう「処方薬一覧」としてファイルをしている。服薬後の症状の変化についても確認をして記録に残している。		
48		○ 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割があり、各自居室の掃除、洗濯物干しや食器洗い、ウエス切りやふきん縫いなどを行っている。また、楽しみ事として塗り絵、オセロやトランプなどを行っている。		

グループホーム 虹の家 琴似

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○ 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に近くの公園まで散歩している。希望者で100均ショップに出かけたり、雪まつりやお花見、紅葉など季節を感じられる場所へ車で出かけている。また、個々に家族とお正月やお盆などに外出もしている。	冬季以外の天候の良い日には近所の公園や住宅街を毎日でも散歩できる。桜や紅葉の季節には外出行事も多いが、冬場はどうしても外出が少なくなる。	冬場には、車を利用して大型店への買い物や近隣のドライブを楽しんだり、事業所の前でキャンドルを利用した「雪あかり」を演出して楽しむなど、身近に外気を感じられる工夫を期待したい。
50		○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者がお金を持つ大切さを理解され、本人が買いに行きたい場合はスタッフが付き添い買い物ができるよう支援している。		
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が連絡を取りたいと思った時に、気軽に言える関係作りに心がけている。ご無沙汰している場合は元気な声を聞かせてあげるよう支援をしている。		
52	19	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前には花が置かれ、居間の窓際にも観葉植物の鉢が置かれて落ち着いて過ごせる空間を作っている。台所は居間から続いている配置なので一緒に食事の支度をしたり、支度の様子を見たり嗅ぐなどができ、家庭的で生活に密接した雰囲気である。また、季節に合わせた部屋の飾り付けを行い季節を感じて頂ける空間作りをしている。	共用空間には季節感のある装飾が施され、洗濯機には手作りのカバーが掛けられている。居間の壁には利用者による習字や飾り物などの作品も沢山飾られている。また、オルガンや馴染みの調度品も随所に置かれ、テレビを見ながら談笑できるスペースや畳スペースもあり、温かく家庭的な雰囲気である。	
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1F道路が見える所にベンチがあり、一人座っても心地よく過ごせる場所である。また、2Fにも大きなテーブルとテレビがあり、そこにも入居者同士が談笑される場所もある。		
54	20	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には馴染みの家具や生活用品が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。壁にも写真や飾り物など利用者の好みを反映した楽しい生活空間となっている。	
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段や廊下、トイレ等入居者の状態に合わせて手すりなどを設置し、安全確保とともに自立への配慮をしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 虹の家 琴似

作成日：平成 22年 12月 7日

市町村届出日：平成 22年 12月 15日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	緊急時の対応に不安がある。	緊急時の対応スキルを身につけることができる。	札幌防災協会で行っている講習を受講する。 会場：琴似プラザ（目標 スタッフ1～2名/月） 町内会の有資格者による講義を受ける。	H12.12月 ～ H13.4月
2	49	冬季の外出予定が「雪祭り見学」だけである。	冬季でも日常的に外出をする習慣ができる。	近所へ出かける楽しみを探す、つくる。 例：買い物 雪かき 雪だるまやアイスクャンドルの作成 近隣のイルミネーションの見学など	H12.12月 ～ H13.4月
3	1	理念の中に「地域密着」という言語が入っていない。	スタッフ一人一人が「地域密着」への意識づけができる。	理念を達成させるための具体的な目標の中に 「地域密着」の言語を取り入れスタッフが意識 できるようにする。	H12.12月
4	35	災害時の備蓄対策が不十分である。	災害に備えて備蓄が完備できる。	町内会と相談し当ホームで準備が必要な物品 を確認する。	H12.12月 ～ H13.3月
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。